

	視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標 (平成 29 年度)	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	児童・生徒の実態やニーズに応じた教育内容を、小学部から高等部まで系統的に再編成した教育課程を実践していく。	① 学部長連絡会を充実させ、系統的な教育課程を実践していく。 ② 教科会において、学部を越えた教科指導の情報共有と教材研究の活性化を図る。	① 年間指導計画の書き方の整理と、授業実践事例の集積を行う。 ② 指導項目例の見直しと、教材の計画的購入を行う。	① 年間指導計画の書式統一と参考となる授業実践の集積ができたか。 ② 小中高の系統性を意識した話し合いを行い指導項目例の見直しと教材整備ができたか。
2	(幼 児 ・ 児 童 ・) 生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導・支援を組織的に行なう。	① P D C A サイクルを意識した実効性ある個別教育計画を、年間を通じて円滑に実践していく。 ② 児童生徒理解のための話し合いを常に行い、見立てる力(アセスメントの力)をつける。	① 具体的な指導の手立てや評価の観点を記した個別教育計画を授業で活かす。 ② 指導について日々の記録と話し合いを行うことや、専門職との連携を強化する。	① 目標と実態とを検証し、具体的な指導方法を日々改善できたか。 ② アセスメントと話し合いの積み重ねが個別教育計画の評価に反映しているか。
3	進路指導・支援	児童・生徒が地域で豊かに生きていくために、本人及び保護者のニーズに応じたキャリア教育を行なう。	① 児童・生徒の将来の生活をイメージし、系統的なキャリア教育を実践する。	① -1「キャリア発達を見据えた武養指導モデル」に則り各学部に応じたキャリア教育を行う。 ① -2 児童・生徒の暮らしと育ちを意識できる学習会や情報の発信に取り組む。	①-1「武養指導モデル」に則った学部ごとの丁寧な実践が行えたか。 ①-2 学習会や情報発信が計画的に行えたか。
4	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域との相互資源活用や理解推進に取り組む。	① 余暇支援やセンター的機能への協力体制を構築する。 ② 居住地交流や就学相談及び研修会に於いてインクルーシブ教育の理解推進を図る。	① 多くの教職員が余暇支援に携われる体制の整備と相談活動へ関りを増やす。 ② 外部に赴くまたは繋がるあらゆる機会を捉えてより多くの教員が地域と関わる。	①余暇支援や相談業務への教職員の参加状況を向上させることができたか。 ②地域からの評価を還元しながらインクルーシブ教育推進のための手立てを考えられたか。
5	学校管理 学校運営	・安心・安全な学校であるための体制の整備を進める。 ・人権を大切に「支え合い学び合い」の職場づくりを推進する。	① マニュアルに基づき効率的且つ協力的な業務遂行を行う。 ② 「人と人との繋がり」を意識した学習指導及び職場作りを行う。	① 実践的にマニュアルの検証を行い、且つ環境整備を進めて効率化を図る。 ② 武養教育宣言を意識して教育実践、業務協力を行い、人権尊重の職場土壌を培う。	① 実効性のあるマニュアルを活用して業務の軽減は行われたか。 ② 児童生徒にわかりやすい工夫、小中高のつながり、教職員のチームワークなど実践できたか。